

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700418
法人名	社会福祉法人山形虹の会
事業所名	グループホーム かけはし
訪問調査日	平成 20年 9月 11日
評価確定日	平成 20年 11月 11日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	670700418		
法人名	社会福祉法人山形虹の会		
事業所名	グループホーム かけはし		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市民田字代家田100-1 (電話) 0235-25-1131		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成20年9月11日	評価確定日	平成20年11月11日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは同一運営法人の事業所と同じ敷地内にあり、田園に立てられた緑豊かな環境の中にあります。法人全体としてホームへの人的な支援、連携の他に各種研修会等を開催し、サービスの質の向上、スキルアップに取り組まれています。又、利用者の他者との交流としてボランティアやサークル活動の関わりの他に併設のデイ・ケアへの週2回の訪問を社会資源のひとつとして捉え、双方向性として良い関係作りに努力されている。さらに個人史を作成し、一人ひとりの生活スタイルを尊重した支援を大事にしているホームです。

【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年 4月 1日	平成14年11月 1日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計 27 人
職員数	26 人	常勤 22 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 21 人

(2)建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨平屋 木造平屋 造り	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500円(650/日×30日)	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護1	2 名	要介護2	11 名
要介護3	8 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78.3 歳	最低 62 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鶴岡協立病院
---------	--------

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、指摘された地域密着型サービスとしての役割を踏まえたホーム独自の理念については、見直しされ整備されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が各項目ごとに自己評価を行い、評価の意義を確認しながら、利用者の声に傾聴し、職員のペースにならないように心がけ取り組まれている。受審することにより職員一人ひとりに気づきが生まれ実践に繋がるための努力をしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	年間の行事計画、活動報告、おたより、外部評価結果等の他に高齢者を取り巻く社会情勢、保障制度等の情報を取り入れながら、2ヶ月に1回開催している。家族会の設置は無いので特に利用者代表には各ユニットごと2名ずつ毎回交替で参加してもらい、より良いサービスが提供できるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	フロアに苦情相談窓口を掲示している。毎月来設する介護相談員も意見や不満等を聞き取る窓口となっており、口頭での意見等は「苦情・要望報告書」に記載している。家族等からの意見等は見直しのきっかけとなる「大切な宝」として受け止め改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域にある保育園の夏祭りに踊りの披露など行事等や地元神社の氏子祭等への参加をし、ボランティアの協力を得ながら「歩こう会」のサークル活動など法人行事等も行われている。町内会の回覧板等も届くようになり、地元商店等を利用しながら地域の人たちとの交流を図り、馴染みの関係に取り組まれている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として「入居者様へ対する心構え」と職員の「自分自身に対する心構え」を掲げ、地域の一員として地域密着を捉えた理念を作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲示しており、日々のサービスのなかで一人ひとりの自己決定の尊重に心がけ、共有を図りながら職員の意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域にある保育園の夏祭りに踊りの披露など行事等や地元神社の氏子祭等への参加をし、ボランティアの協力を得ながら「歩こう会」のサークル活動など法人的行事等も行われている。町内会の回覧板等も届くようになり、地元商店等を利用しながら地域の人たちとの交流を図り、馴染みの関係に取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が各項目ごとに自己評価を行い、評価の意義を確認しながら、利用者の声に傾聴し、職員のペースにならないように心がけ取り組まれている。受審することにより職員一人ひとりに気づき生まれ実践に繋がるための努力をしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の行事計画、活動報告、おたより、外部評価結果等の他に高齢者を取り巻く社会情勢、保障制度等の情報を取り入れながら、2ヶ月に1回開催している。家族会の設置は無いので特に利用者代表には各ユニットごと2名ずつ毎回交替で参加してもらい、より良いサービスが提供できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム介護保険事業所連絡協議会の他に、毎年、市の養成事業である、認知症高齢者の見守り支援隊の施設実習や、介護相談員の受け入れ等を行い、市との連携を深め、地域へ密着したサービスが出来るように努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「グループホームかけはしだより」を発行している。ホームでの生活の様子を写真と共に載せ、現金出納帳と一緒に送付し、さらに6ヶ月ごとの面談や面会時など、随時報告、連絡を行なっている。又、職員の顔写真を各ユニットの玄関に掲示している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアに苦情相談窓口を掲示している。毎月来設する介護相談員も意見や不満等を聞き取る窓口となっており、口頭での意見等は「苦情・要望報告書」に記載し、家族等からの意見等は見直しのきっかけとなる「大切な宝」として受け止め改善に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には不安を与えないよう時間をかけて説明をし、家族にも面談等で引継ぎのあいさつをしている。職員交代への反応は穏やかである。利用者との日々の生活をユニット職員全体でと関わることでダメージを軽くする取り組みをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等は年間計画を立て、毎月ホーム全体の部門会議、各ユニット会議等をそれぞれ開催し、法人内の各種委員会を中心に実施している。担当職員は情報収集等への関心とスキルアップ向上に繋がる資料作成まで関わり、意識を高める取り組みをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会の研修会や交換実習、市グループホーム部会での研修会等への参加機会を確保し、改善やサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庄内地方に伝わる節目節目の行事・伝統食の献立、なすやトマト等の栽培、刺し子などの裁縫、来客へのお茶だし等それぞれの出来ることや得意分野を引き出しながら、お互いに支えあい生き生きとした場面作りに留意している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、受診、入浴や美容院、買物、外食等の希望や思いを会話や表情よりゆっくりと意向を引き出し、職員一人ひとりの気づきを共有し、思いに添えるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、職員の気づきや意見等を取り入れながら、定期的にサービス担当者会を行い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月、3ヶ月と利用者の状況を確認しながら、6ヶ月ごとの定期的な見直しを行っている。リハビリをしている人には他職種協働として法人施設内のリハビリ技師よりアドバイスを受け、計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	定期的な受診や緊急の場合は協力医療機関と連携を 図っているが、入所前からのかかりつけ医を基本的 に継続して受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の対応について、法人として「医療連 携体制に関する指針」を掲げており、ホームでの取り組 みはされていないが、法人内の受け入れ等も含め関係 医療機関への対応となることを、契約時家族等に説 明、確認している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	個人情報家族の一員として捉え、尊厳を重視しプ ライバシーや羞恥心に配慮した声かけやコミュニケー ションに工夫をしている。施設とホームの関わり方の違 い等を特に心がけ研鑽し、職員の意識向上を図ってい る。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その時の本人の体調 やペースに配慮し個別性のある支援を行っている。職 員のペースにならないよう優先順位等に留意し関わり を持つ努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は法人内で調理されたものを摂られている。昼食と夕食の準備、片付け等の出来ることは職員と一緒にやっている。又、日曜日は各ユニットごと好きなメニューで、毎日の食事を楽しめるものになっている。介助を必要方には、声かけ、飲み込みを確認しながら職員がゆっくりと介助をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を柔軟に対応しているが、生活のリズムが出来ているせいか、ほとんど夕食前に入られている。浴室には個人ごとの塗り薬等の確認票が張られており、安心して入浴を楽しむことが出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、職歴を活かしながらも、固定観念に捉われず、幅広く法人内や各種行事等への声かけを促し、生き生きとくる新しい気づきを支援している。市立図書館や歩こう会、御詠歌、ゲートボール等サークル活動への参加や週2回ディケアへの訪問等を行い交流の機会を増やしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日近所の店へ買物に出かけるなど、利用者の希望に添って周辺の散歩や外出をしている。地区内での買物を通し地域の人たちとの馴染みの関係作りに努力している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は施錠しておらず、職員は個人個人の行動パターンを察知し、本人が安心するまで声かけや見守りを行っている。夜間の玄関と外部との入り口は施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難訓練を法人全体で行っている。自然災害に備えての非常用食料等の確保や消防法の改正と思われるスプリンクラーの設置状況等については、今後の検討課題とされている。		スプリンクラーは引き続き検討をしていただき、水害や地震災害等についての対応や対策は今後の取り組みに期待されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量を記録し、必要に応じた食事形態を実施している。栄養のバランス等は、法人内の管理栄養士よりアドバイスを受け献食も年3回している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには神棚が祭られ、庄内地方の農村風景、郷土力士「柏戸」の当時を偲ぶ写真等が飾られ、利用者の共感を得ている。光や換気も適度でユニットごと色分けされたソファ等にも配慮され、利用者がゆったりと歓談されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今までと同じような雰囲気を継続できるよう、使い慣れた馴染みのものを持参し、居心地の良さに配慮されている。居室を空ける場合は畳を上げたり、寝るときはパジャマに着替える等メリハリのある生活の支援をしている。		